

平成21年度大気環境保全活動功労者表彰受賞者及び功績

(個人:15件 団体:5件)

個人

氏名	年齢(歳)	職 業	功 績 概 要
イワモト イッセイ 岩本 一星	67	埼玉大学名誉教授	川崎市環境審議会委員を平成10年より歴任し、大気汚染対策の視点を中心に、環境改善に向けた広い視野からの提言のとりまとめや有益な助言を行い、川崎市における窒素酸化物や浮遊粒子状物質に係る大気汚染対策をはじめとする種々の環境政策の推進に尽力。
イワモト シンジ 岩本 眞二	60	福岡県保健環境研究所 環境科学部長心得	福岡県保健環境研究所にて、主に大気汚染に係わる浮遊粒子状物質の汚染予測手法と動態に関する研究や光化学オキシダントにおける広域的濃度レベル上昇の原因究明等の研究に従事し、環境省(庁)設置の各種検討会に参画。
ウエキ カツジ 上木 勝司	64	山形大学農学部教授	市民グループ、大学等研究機関及び行政機関で構成する「やまがた酸性雨ネットワーク」設立に尽力するとともに、県民参加の酸性雨一斉調査や交流会開催等のネットワーク事業を展開し、県民の大気環境保全意識の向上に大きく貢献。
ウチダ ヒデア 内田 英夫	59	長野県環境保全研究所 専門研究員	多年にわたり騒音振動対策及び大気保全に関する調査研究に取り組んでおり、特に騒音の環境基準の改正に伴う等価騒音レベル評価法に対して省力化した測定法を提案するなどの騒音調査、対策に多大な貢献。また、環境省設置の騒音関係検討委員会などにも参画。
スガマ ヤスマサ 須釜 安正	60	元栃木県保健環境センター 主幹兼化学部長	平成5年より、栃木県公害研究所、保健環境センターにおいて、ダイオキシン類及び廃棄物に係る試験研究に従事。平成14年度より、ダイオキシン類環境測定調査受注資格審査検討会検討員として、ダイオキシン類測定の精度管理の向上に多大な貢献。
タカハシ ノブユキ 高橋 伸行	62	元宮城県環境生活部次 長	多年にわたり大気環境保全を中心とする宮城県の環境保全行政に従事し、特にスパイクタイヤ粉じん対策では、国への要請活動を行うなど法制化に尽力。
タカハシ ヒデアキ 高橋 英明	51	北海道環境科学研究セ ンター主任研究員	長年にわたり、北海道における騒音振動低周波音に関する各種実態把握や影響予測手法の調査研究などを行い、騒音振動に関する環境行政に多大な貢献。また、環境省実施の騒音に係る調査の検討会に委員として参画し、測定マニュアルの作成等にも貢献。
ナカガワ ジュンイチ 中川 順一	61	元東京都健康安全研究 センター 副参事研究 員	昭和49年度より、東京都立衛生研究所、健康安全研究センターにおいて、ダイオキシン類等有害化学物質に関する研究に従事。平成12年度より、ダイオキシン類環境測定調査受注資格審査検討会検討員としてダイオキシン類測定の精度管理の向上に多大な貢献。
ノウミ シュンロウ 納見 俊六	76	元兵庫県保健環境部参 事兼環境局大気課長	多年にわたり、兵庫県の大気環境行政に関する業務に従事。在職中、「阪神地域窒素酸化物総量削減計画」及び「大規模工場・事業場に係る総量削減指導指針」の策定に携わるなど、県の窒素酸化物対策に貢献。行政、事業者、県民が一体となり、大気環境保全活動を行う組織である「兵庫県大気環境保全連絡協議会」の設立に尽力。
ハラ ミノル 原 稔	65	富山大学人間発達科学 部教授	多年にわたり、富山県環境審議会大気騒音振動専門部会の委員を務め、大気環境に関する有識者として、県の大気環境保全行政に多大な貢献。

フクドメ 福留 清秀	61	元熊本県環境生活部環境保全課長	21年間にわたり熊本県の大気環境保全行政に従事し、熊本県のみならず、地域における大気環境を保全するため、隣県を含めた九州各県及び企業を巻き込んだ先駆的な取組により大気環境の保全に大きく貢献。
ミツギ 光木 偉勝	69	元兵庫県公害研究所第一研究部長	多年にわたり、大気環境に係る研究に従事。特に専門分野である「植物による大気汚染の評価と大気汚染による植物影響」については、蘚苔(せんたい)類についてSO2等の大気汚染ガス、雨水および重金属の暴露実験により発芽生長の複合影響の基礎実験を行い、フィールドでは東播・神戸市における複合大気汚染のモニタリングを実施。
モリツ 森津 秀夫	58	流通科学大学情報学部教授	神戸市環境影響評価審査会、神戸市都市計画審議会などの委員を歴任。交通シミュレーションを専門とし、交通計画、輸送計画等に関する専門的見地から、地域交通における大気質・騒音等の大気環境への影響に関する有益かつ先見的な助言を行い、環境アセスメントや、都市計画・交通計画に関する調査審議に長年尽力。
ヤマカワ 山川 和彦	63	元京都府保健環境研究所 大気課長	京都府保健環境研究所において長年にわたり大気汚染に関する業務に携わり、京都府における大気汚染物質の測定方法及び調査方法の確立に尽力。また、国立環境研究所と自治体等による光化学オキシダントの挙動解明研究に参画。
ワタナベ 渡邊 明	61	福島大学理工学群共生システム理工学類教授	気象や地球環境、大気環境などの分野で幅広く活躍するとともに、長年、福島県環境審議会委員を務め、福島県の環境行政に有益かつ先験的助言を行う。また、県環境影響審査会会長として福島県の大気環境行政に大きく貢献。

団体

株式会社 ガスター	代表取締役社長	ナカニシ セイイチ 中西 誠一	環境改善と近隣の臭気苦情への対応を図るため、有機溶剤塗料から粉体塗料への転換を決断し、平成18年から検討を重ね、平成20年7月に粉体塗装設備を完成したことにより、臭気の原因である有機溶剤の使用をゼロにした。(VOCの大気排出量が99%削減)
ケイセイ 京成バス株式会社	代表取締役社長	オダ ユキカズ 小田 征一	早期からアイドリングストップ車を導入し、全ての高速車にエコタイヤの装置、全車にデジタルタコグラフを装備し燃費の向上に努め、低公害車(CNG車)の導入等、大気汚染防止対策に自主的かつ積極的に取り組んできた。特に、ハイブリッド車については、積極的に導入し、現在13台(本年度中に6台を新規購入予定)と旅客自動車運送(バス)事業者として大気汚染防止対策に貢献し、事業者の範となっている。
スミトモ ジュウキカイ コウギョウ 住友重機械工業株式会社	取締役社長	ナカムラ ヨシノブ 中村 吉伸	船舶建設の塗装工程でのVOC排出削減のため、VOC処理装置を設けた屋内塗装施設を早期に設置する等の取組みを積極的に推進し、事業所からのVOC排出量の削減を図っている。
株式会社 ヤマグチ コウギョウ 山口工業	代表取締役会長	ヤマグチ フミオ 山口 文男	自動車板金の吹付塗装工程でのVOC排出削減及び従業員の作業環境の改善のため、新たな原理を利用したスクラバーを自社開発して設置する等、取組みを行い、事業所からのVOC排出量の削減を図っている。
ウシユ ヤマト運輸株式会社	代表取締役社長	キガワ マコト 木川 真	アイドリングストップ等のエコドライブの推進、低公害車の導入等大気汚染防止対策に自主的かつ積極的に取り組んできた。低公害車については10,240台(ハイブリッド車は4,280台)を保有(2008年現在)。さらに最近、車を使わない集配を推進するなど運送事業者として大気汚染防止対策に貢献し、事業者の範となっている。